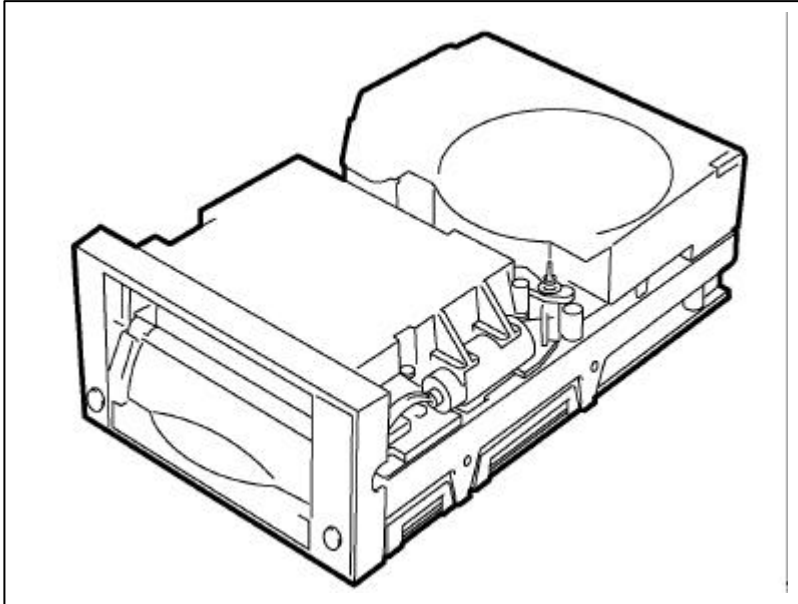


**NEC**



# **N8151-17**

## **内蔵 DLT 装置**

### **取扱説明書**

804 - 086889 - 300 - 0

2001年 5月 初版

2001年 6月第2版

#### **ご注意**

本製品を見る前に必ず本書をお読み下さい。  
本書は熟読の上、大切に保管して下さい。

## 商標について

DLT と DLT tape は、米国 Quantum 社の商標です。  
ARCserve は米国 Cheyenne Software Inc. の登録商標です。

その他、記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

## 海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。


## ⚠ 使用上のご注意 ~必ずお読み下さい~


本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

### 安全にかかわる表示について







本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。



 **警告** 指示を守らないと人が死亡する、または重症を負うおそれがあることを示します。

 **注意** 指示を守らないと、火傷や怪我がを負うおそれや物理的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。





	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (接触禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜く)

(本書での表示例)




注意を促す記号	危険の程度を表す用語	危険に対する注意
	<b>注意</b>	
	<b>電源がONのまま取り付け・取り外しをしない</b>	基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いて下さい。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

# 本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

## 注意の喚起

	感電おそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		指定しない一般的な注意・警告を示します。

## 行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解・修理・改造しないで下さい。感電や火災のおそれがあります。
	指定された部品や場所、ものには触らないで下さい。けがをするおそれがあります。		




## 行為の強制






	本装置の電源プラグをコンセントから抜いて下さい。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をして下さい。
-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------

## 安全上のご注意



本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用下さい。記号の説明については巻頭の『安全に関わる表示について』の説明を参照して下さい。

### 全般的な注意事項

 <b>警告</b>	
	<b>煙や異臭、異音がしたまま使用しない。</b> 万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いて下さい。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡下さい。そのまま使用すると火災の原因となります。
	<b>針金や金属片を差し込まない</b> 通気孔やカートリッジ挿入口などの隙間から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。






 <b>注意</b>	
 	<b>海外で使用しない</b> 本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。本装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。
 	<b>装置内に水や異物を入れない</b> 装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いて下さい。分解したりしないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

## 電源・電源コードに関する注意事項




 <b>警告</b>	
	<p><b>ぬれた手でDCケーブルを持たない</b></p> <p>ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないで下さい。感電するおそれがあります。</p>



 <b>注意</b>	
	<p><b>電源がONのまま取り付け・取り外しをしない</b></p> <p>基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いて下さい。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。</p>
	<p><b>指定以外のケーブルは使わない</b></p> <p>基本処理装置と接続するケーブルは当社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。</p>
 	<p><b>指定以外の接続をしない</b></p> <p>DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。</p>
	<p><b>破損したケーブルを使わない</b></p> <p>ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がったり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。</p>
	<p><b>中途半端に差し込まない</b></p> <p>DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。</p>

## 設置・移動・保管・接続に関する注意事項

 <b>注意</b>	
	<p><b>未使用のコネクタにジャンパなどを取り付けない</b></p> <p>未使用のコネクタにジャンパなどを取り付けないでください。誤動作の原因となります。</p>
	<p><b>通風口をふさがない</b></p> <p>本装置前面にある通風口をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。</p>
	<p><b>プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない</b></p> <p>インタフェースケーブルの取り付け/取り外しは基本処理装置の電源コードをコンセントから抜いて行って下さい。たとえ電源を OFF にしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートにや火災を起こしたりすることがあります。</p>
	<p><b>指定以外のインタフェースケーブルを使用しない</b></p> <p>インタフェースケーブルは NEC が指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続して下さい。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。</p> <p>また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ケーブルを踏まない。</li> <li>● ケーブルの上にものを載せない。</li> <li>● ケーブル接続がゆるんだまま使用しない。</li> <li>● 破損したケーブルを使用しない。</li> <li>● 破損したケーブルコネクタを使用しない。</li> <li>● ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。</li> </ul>






## お手入れに関する注意事項

 <b>警告</b>	
	<b>自分で分解・修理・改造はしない</b> 本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。
	<b>プラグを差し込んだまま取り扱わない</b> お手入れは、基本処理装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内部の部品に触ると感電するおそれがあります。

 <b>注意</b>	
	<b>中途半端に取り付けない</b> DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。




## 運用中の注意事項

 <b>注意</b>	
	<b>カートリッジ挿入口に手を入れない</b> カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。
	<b>雷がなったら触らない</b> 雷が鳴り出したら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。
	<b>ペットを近づけない</b> 本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。
	<b>近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない</b> 本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいて下さい。電波による誤動作の原因となります。

# 目次

---

 使用上のご注意 ~必ずお読み下さい~ .....	i
安全にかかわる表示について .....	i
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容 .....	ii
安全上のご注意 .....	iii
全般的な注意事項 .....	iii
電源・電源コードに関する注意事項 .....	iv
設置・移動・保管・接続に関する注意事項 .....	v
お手入れに関する注意事項 .....	vi
運用中の注意事項 .....	vii
はじめに .....	xi
本書の構成について .....	xii
本文中の記号について .....	xiii
第1章 内蔵 DLT 装置について .....	1
内蔵 DLT 装置の特徴 .....	1
箱の中身 .....	2
各部の名称 .....	3
装置前面 (フロントパネル) .....	3
装置背面 (リアパネル) .....	4
装置右側面 (ライトサイド) .....	4
装置左側面 (レフトサイド) .....	5
ボタン .....	6
フロントパネルの左側のランプ .....	6
フロントパネル右側のランプ .....	7
取り扱い上の注意 .....	8
本体について .....	8
カートリッジテープについて .....	8
装置の譲渡と廃棄について .....	8
第2章 セットアップ .....	9
Step1 SCSI ID の設定 .....	9
Step2 基本処理装置 / デバイス増設ユニットへの取り付け .....	10
DC 電源ケーブルの接続 .....	12
SCSI ケーブルの接続 .....	12

<b>第 3 章 使用方法</b> .....	<b>14</b>
電源の ON/OFF .....	14
自己診断(POST).....	14
カートリッジテープの挿入 .....	16
カートリッジテープの取り出し .....	17
ランプ表示について .....	18
記録密度の選択 .....	19
記録密度の選択方法 .....	19
密度の選択手順 .....	19
密度選択の例 .....	20
<b>第 4 章 カートリッジテープ</b> .....	<b>21</b>
カートリッジテープについて .....	21
カートリッジテープの書き込み保護スイッチ .....	21
ラベルの取り付け位置 .....	22
取り扱い上の注意 .....	23
使用上の注意事項 .....	23
一般的な注意事項 .....	23
使用禁止基準 .....	24
寿命 .....	24
正副 2 巻にバックアップ .....	25
データの 3 世代管理について .....	25
カートリッジテープの保管について .....	25
<b>第 5 章 日常の保守と装置の輸送</b> .....	<b>26</b>
クリーニング .....	26
装置のクリーニング .....	26
ヘッドのクリーニング .....	26
装置の移動・輸送について .....	27
<b>第 6 章 故障かな？と思ったときは</b> .....	<b>28</b>

付録 A 仕様 .....	30
N8151-17 内蔵 DLT 装置 .....	30
付録 B 別売品および消耗品 .....	31
別売品 .....	31
消耗品 .....	32
付録 C カートリッジテープの確認方法 .....	33
付録 D 運用状況お客様記入シート .....	34

# はじめに

---

N8151-17 内蔵 DLT 装置（以下、本装置と呼ぶ）は、Express5800 シリーズのサーバで使用できる内蔵型のテープバックアップ装置です。

本書は、本装置の取り扱いに関する手引きです。本装置の取り付けや日常の取り扱い、保守をする際にご覧ください。

また、「故障かな？」と思ったときにもご覧ください。

本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管しておいてください。

# 本書の構成について

本書の構成と各章の概略について説明します。本装置に関することで知りたいことがあるときなどにご利用ください。

<b>第1章 内蔵DLTについて</b>	本装置の特長と装置の設置方法を順を追って説明します。
<b>第2章 フロントパネル</b>	本装置前面にあるフロントパネル上のボタンの機能やランプの表示の意味などを説明します。
<b>第3章 外付けDLT装置の取り扱い</b>	本装置で使用するカートリッジテープの取り扱い方法、カートリッジテープの挿入/取り出し方法について説明します。 また、記録密度の選択方法についても説明します。
<b>第4章 日常の保守と装置の輸送</b>	本装置のクリーニング方法について説明します。また、本装置を輸送するときの手順についても説明します。
<b>第5章 故障かな?と思ったときは</b>	本装置が思うように動かないときは装置の故障を疑う前にまずここで示すチャートを参照してください。
<b>付録A 仕様</b>	本装置およびカートリッジテープの仕様を記載しています。
<b>付録B 別売品および消耗品</b>	別売品および消耗品の仕様を記載しています。
<b>付録C カートリッジテープの確認方法</b>	カートリッジテープのリーダループの破損確認の方法を記載しています。
<b>付録D 運用状況お客様記入シート</b>	装置本体やデータカートリッジテープなどの使用状況や取り付けているシステムの構成情報を記入するメモ欄です。記入した内容は保守や修理の際に有用な情報となります。ご利用ください。

## 本文中の記号について

本文中では、次の記号を使って運用上の注意やヒントを示しています（安全上の注意事項に関する記号については巻頭の説明をご覧ください）。



装置の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。





# 第1章 内蔵DLT装置について

---

本装置の取り付けや取り扱いをする前に知っておいていただきたいことについて説明します。

## 内蔵 DLT 装置の特徴

本装置は、サーバ機器などのファイルシステム用に開発された外部記憶装置で、中位から最上位までのコンピュータシステムで使用するために設計された、大容量の高性能ストリーミングカートリッジテープ装置です。

- 本装置はSCSI( Small Computer System Interface )インタフェースを備えた内蔵DLT( Digital Linear Tape )装置です。ワイド - シングルエンドを使用しています。
- 本装置は、5.25インチのフォームファクタ、ハーフインチのテープドライブで、データの圧縮機能を備えており、1 カートリッジテープあたり70GBの容量( フォーマット時 )をサポートしています。( データ圧縮効率2倍を仮定した場合。 )
- 4チャンネルの読み込み / 書き込みヘッドを持ち、Digital Lempel- Ziv ( DLZ ) 高効率データ圧縮を行います。
- 高速データ転送速度  
本装置は高速で大容量のデータをバックアップできます。本装置が非圧縮モードで動作するときの最大転送速度( 読み込み / 書き込み時 )は5MB/秒です。圧縮モード動作時の最大転送速度( 読み込み / 書き込み )は10MB/秒です。
- 大容量  
カートリッジテープに記録できるデータ量は、非圧縮モード時で最大35GB、圧縮モード時で70GB( 圧縮効率2倍時 )です。( EF- 2413Gのカートリッジ使用時 )
- データ圧縮機能  
データの圧縮機能により、カートリッジテープの容量は増加し、データを効率よく格納することができます。  
8MBの読み込み/書き込みデータのキャッシュ機能によりデータ圧縮化用の作業スペースが得られ、利用可能なテープスペースを最大限に使用できます。データ圧縮記録密度の選択は、本装置のフロントパネルから操作することができます。
- メディアの耐久性  
使用するメディア( カートリッジテープ )は優れた耐久性とデータの信頼性を提供し、500,000回の読み込み / 書き込み動作に耐えます。
- 互換性  
本装置は、2.6GB、6GB、10GB、10GB+圧縮、20GB、20GB+圧縮、35GB、35GB+圧縮の記録密度でテープにデータを読み込み / 書き込むことができるため、他のDLT 装置で記録したデータを使用することができます。ただし、テープ上の記録フォーマットと装置にて選択した記録フォーマットが異なる場合、テープの始め( BOT )から書き込みを行うときに限り変更が可能で、装置にて選択した記録フォーマットで再フォーマットされます。( 使用できる記録密度は使用するカートリッジテープに依存します。 )  
SCSI- 2のANSI規格に準拠しており、テープメディアのフォーマットは、ECMAが承認し、ANSIが提唱する規格に従っています。
- 自己診断機能  
本装置は、自己診断機能( POST )が組み込まれており、電源を投入すると自動的に自己診断テストを実行し、本装置自身に異常がないことを確認すると同時に、読み込み / 書き込みヘッドのクリーニングの必要時期の確認も行います。POSTが終了するとその診断結果と現在の装置の状態をユーザに知らせます。

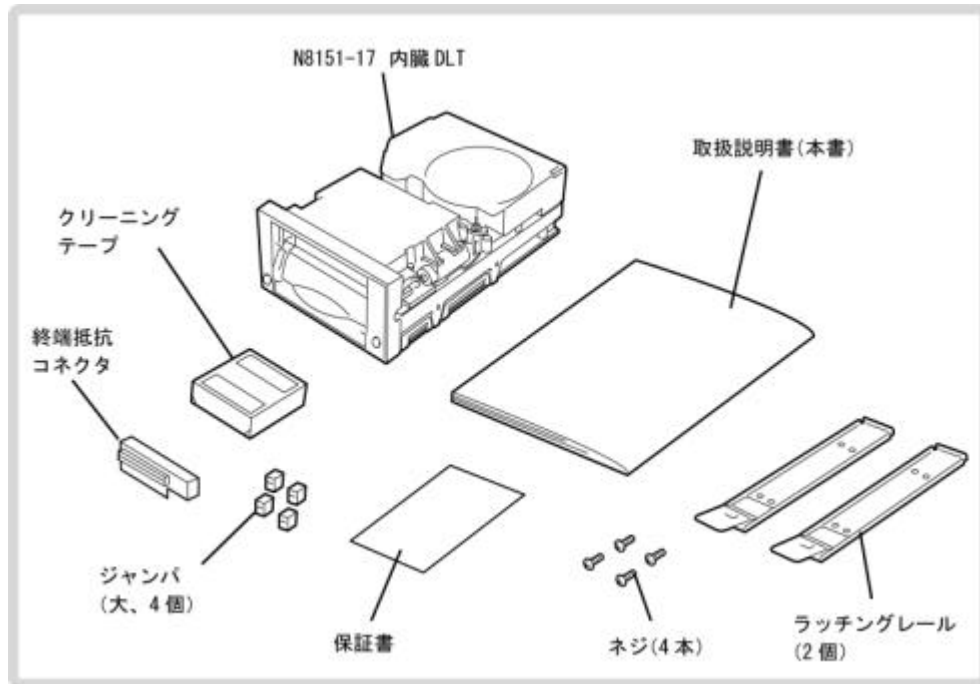
## 箱の中身

梱包箱を開けて次のものがすべてそろっていることを確認し、それぞれの点検を行ってください。万が一足りないものや損傷しているものがある場合には、お買い求めの販売店に連絡してください。



重要

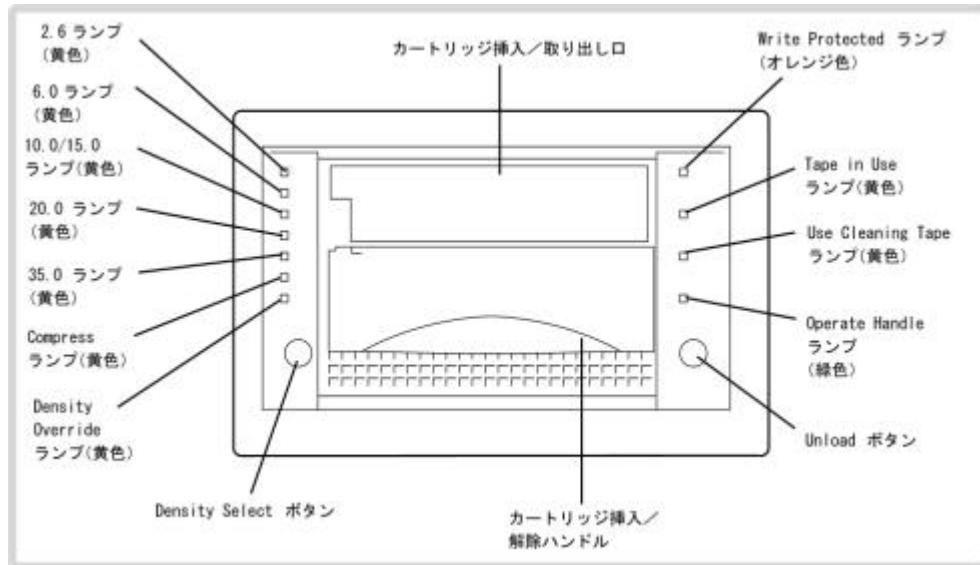
- 箱と緩衝材は装置の移動時や保管時に使用しますので大切に保管しておいてください。
- 本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合は『保証書』の記載内容に基づき無料修理いたします。



# 各部の名称

本装置の設置や取り扱い時に使用する部品の名前とその位置を示します。

## 装置前面（フロントパネル）

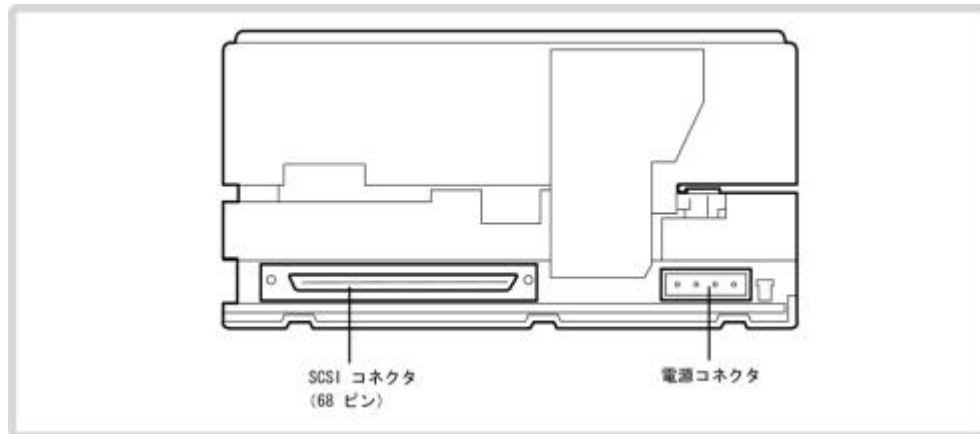


ボタン ( 6 ページ)	Density Selectボタン	記録密度を選択するボタン
	Unloadボタン	カートリッジテープを装置から取り出すときに押す。

左側のランプ ( 6 ページ)	2.6ランプ (黄色)	カートリッジテープの記録密度の状態を表示する。
	6.0ランプ (黄色)	
	10.0/15.0ランプ (黄色)	
	20.0ランプ (黄色)	
	35.0ランプ (黄色)	
	Compressランプ (黄色)	
	Density Overrideランプ (黄色)	
右側のランプ ( 7 ページ)	Write Protectedランプ (オレンジ)	カートリッジテープの状態/操作について表示する。
	Tape Useランプ (黄色)	
	Use Cleaning Tapeランプ	
	Operate Handleランプ (緑色)	

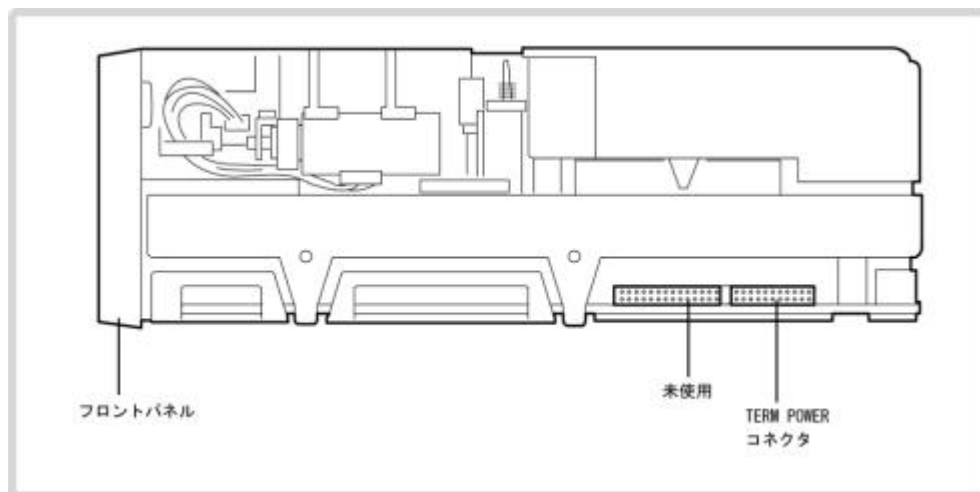
カートリッジ挿入 / 取り出し口	カートリッジテープの挿入 / 取り出しするスロット。
カートリッジ挿入 / 解除ハンドル ( 第 3 章参照)	カートリッジテープを挿入または取り出すときに操作。

## 装置背面（リアパネル）



電源コネクタ	本装置に電源を供給するコネクタ。 添付の電源コードを差し込みます。
SCSI コネクタ	本装置を制御させるための信号コネクタ。 サーバ/ワークステーションなどの基本処理装置の信号ケーブルと接続させます。

## 装置右側面（ライトサイド）

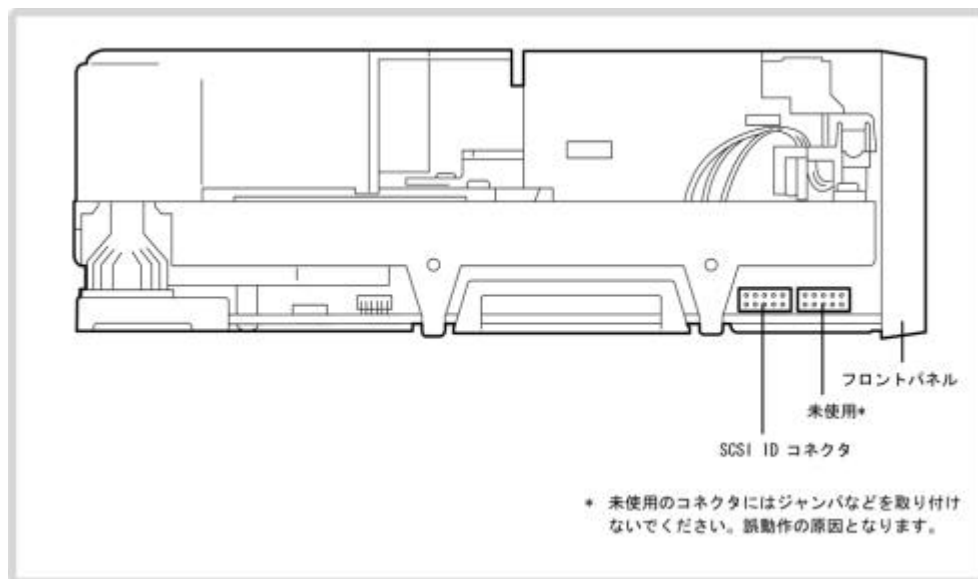


TERM POWERコネクタ	本装置に供給するTERM POWERを設定します。
----------------	---------------------------



ライトサイドにあるコネクタは出荷時の設定のままにしておいてください。ジャンパなどを取り付けたり、ケーブルを接続したりすると誤動作したり、故障したりするおそれがあります。

## 装置左側面（レフトサイド）



SCSI IDコネクタ

本装置のSCSI IDを設定します。  
本装置はSCSI ID 0に設定されています。

## ボタン

Density Selectボタン	テープの始め ( BOT ) からデータを書き込むとき、このボタンを押すと 2.6GB、6.0GB、10.0GB、10.0GB ( 圧縮付き )、20.0GB、20.0GB ( 圧縮付き )、35GB、35GB ( 圧縮付き ) のうちのいずれかの記録密度を選択することができます ( 第 3 章参照 )。
Unloadボタン	「Unload」ボタンは、カートリッジテープを取り出したいときに使用します。「Unload」ボタンを押すと、本装置はキャッシュ上のデータのテープへの書き込み動作が完了するまで待ってから、カートリッジテープをカートリッジに巻き戻します。カートリッジテープは、本装置からカートリッジを取り出す前に、カートリッジに巻き戻しておかなければならないため、カートリッジテープの位置によってカートリッジテープの取り出し操作には10秒～4分程かかります。 本装置にエラーが起きた場合( フロントパネルの右側のランプがすべて点滅している )、 「Unload」ボタンを押すと、本装置はリセットされ、カートリッジテープの取り出しが可能な場合はカートリッジテープの取り出しが行われます。

## フロントパネルの左側のランプ

フロントマスク左側のランプはカートリッジテープの記録密度に関して表示する。  
下表にそれぞれのランプの表示状態と本装置の状態を示します。

ランプ名	表示	動作状態
2.6	点灯	カートリッジテープが2.6GBのフォーマットで記録されています。
	点滅	カートリッジテープが2.6GB以外の密度で記録されています。 2.6GBのフォーマットで、BOTからの書き込みを選択しました。
6.0	点灯	カートリッジテープが6.0GBのフォーマットで記録されています。
	点滅	カートリッジテープが6.0GB以外の密度で記録されています。 6.0GBのフォーマットで、BOTからの書き込みを選択しました。
10.0/15.0	点灯	カートリッジテープが10.0GBのフォーマットで記録されています。
	点滅	カートリッジテープが10.0GB以外の密度で記録されています。 10.0GBのフォーマットで、BOTからの書き込みを選択しました。
20.0	点灯	カートリッジテープが20.0GBのフォーマットで記録されています。
	点滅	カートリッジテープが20.0GB以外の密度で記録されています。 20.0GBのフォーマットで、BOTからの書き込みを選択しました。
35.0	点灯	カートリッジテープが35.0GBのフォーマットで記録されています。
	点滅	カートリッジテープが35.0GB以外の密度で記録されています。 35.0GBのフォーマットでBOTからの書き込みを選択しました。
Compress	点灯	圧縮モードが有効になっています ( 圧縮は、10.0GB、20GB、35GBの密度でのみ行えます )。
	消灯	圧縮モードが無効になっています。
Density Override	点灯	記録密度をフロントパネルのボタンで選択しました。
	消灯	記録密度は、ホストから選択されます。
	点滅	本装置が記録密度を選択できる状態にあります。

## フロントパネル右側のランプ

フロントパネル右側のランプは、本装置に挿入されるカートリッジテープの使用 / 操作の状態を示します。ランプは黄色または緑色に点灯 / 点滅 / 消灯して状態を示します。

下表に、フロントパネル右側のランプの表示状態と本装置の状態を説明します。

ランプ名	表示	意味
Write Protected (オレンジ)	点灯	カートリッジテープが書き込み禁止状態です。
	消灯	カートリッジテープが書き込み可能状態です。
Tape in Use (黄色)	点灯	カートリッジテープが挿入されており、使用準備ができています。
	点滅	カートリッジテープが読み込み、書き込み、巻き戻しのいずれかの作業を行っています。
Use Cleaning Tape (黄色)	点灯	読み込み / 書き込みヘッドのクリーニングが必要、あるいはカートリッジテープが汚れています (第5章参照)。
	クリーニングテープを取り出した後、点灯したままになる。	クリーニングテープによりヘッドのクリーニングを試みましたが、クリーニングテープが効力を失っているためにクリーニングが行われませんでした。新しいクリーニングテープをご使用ください。
	クリーニングの後で、カートリッジテープを再び挿入したときにもう一度点灯する。	挿入したカートリッジテープに問題があります。別のカートリッジテープで試してみてください。
	消灯	ヘッドのクリーニングが完了している、あるいはクリーニングが不要です。
Operate Handle (緑色)	点灯	カートリッジ挿入/解除ハンドルを操作できます。
	消灯	カートリッジ挿入/解除ハンドルを操作しないでください。
	点滅	カートリッジ挿入/解除ハンドルをとじてください。

# 取り扱い上の注意

本装置を正しく動作させるために次の注意事項を守ってください。

---

## 本体について

本装置は精密な電子部品でできています。衝撃を加えたり、振動の加わる場所で保管および使用したりしないでください。

薬品の蒸気が発散している空気中や薬品に触れる場所で保管および使用しないでください。

本装置の電源を OFF にする前に必ずカートリッジテープを取り出してください。

本装置に電源を入れたまま移動および輸送をしないでください。

本装置の上に重いものを置いた状態で保管および使用しないでください。

窓、ファン、およびエアコンの近くまたは通路など空気が動くところに置かないでください。

むやみにスイッチを押したり、押し続けたりしないでください。

バックアップアプリケーションによっては、同時に2つ以上インストールされている場合、誤動作の原因となることがあります。詳しくは、バックアップアプリケーションに添付の説明書をお読みください。

---

## カートリッジテープについて

本装置で使用できるカートリッジテープは、約10センチ（4インチ）のプラスチック製カートリッジテープ（型番：EF-2413G）です。

NECが提供するカートリッジテープを使用することをおすすめします。

型番：EF-2413のカートリッジテープを使用することができます。

クリーニングテープは型番：EF-3237Eをご使用ください。

その他の注意事項については4章を参照してください。

## 装置の譲渡と廃棄について

本装置ならびに消耗品、付属品を廃棄の際は、各自治体の廃棄方法に従ってください。

本装置を譲渡する場合は、本書を含むすべてのものを譲渡してください。



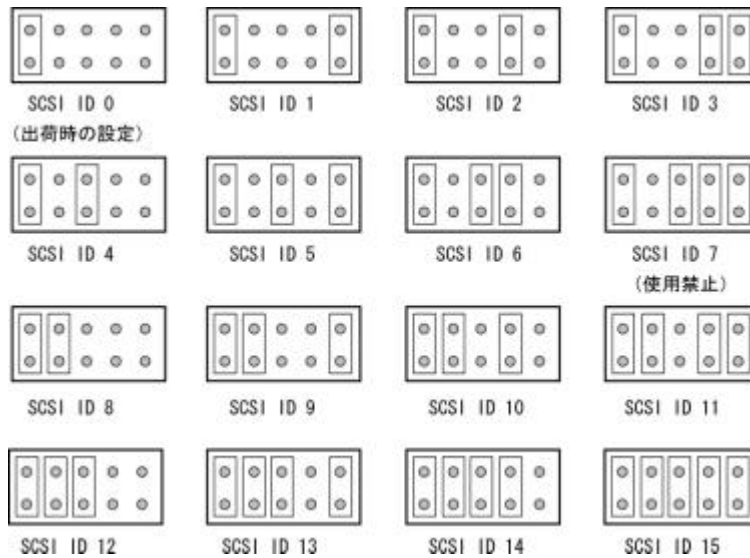
# 第2章 セットアップ

## Step1 SCSI ID の設定

本装置を基本処理装置に取り付ける前に、本装置の SCSI ID が本装置と同一 SCSI バス上に接続される他の SCSI 機器と重複していないことを確認してください。(本装置は工場出荷時 SCSI ID 0 に設定されています。)

本装置の SCSI ID は、レフトサイドにある SCSI ID コネクタに添付のジャンパ(大)を取り付けることで変更することができます。次の手順に従って SCSI ID を変更してください。

- 1 接続する他の SCSI 機器の SCSI ID を確認して、本装置の SCSI ID を選択します。
- 2 本装置のレフトサイドにある SCSI ID コネクタにジャンパ(大)を取り付けて SCSI ID を変更します。



## Step2

# 基本処理装置 / デバイス増設ユニットへの取り付け

以下に基本処理装置 / デバイス増設ユニットなどへの取り付け方法の一例を示します。本装置を取り付ける前に、取り付ける装置の電源を OFF にして、電源コードと背面に接続しているすべてのインタフェースケーブルを取り外してください。また、カバー類を取り外しておいてください（カバー類の取り外し方法については、それぞれの装置に添付の説明書を参照してください）。

### ⚠ 注意



本装置の取り付けを始める前に、必ず基本処理装置 / デバイス増設ユニットなど取り付ける装置の電源プラグをコンセントから引き抜いてください。コンセントに差し込んだまま作業を行うと感電するおそれがあります。

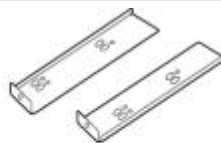
ラッチングレールを取り付けて、基本処理装置に実装する準備をします。ラッチングレールは、本装置、基本処理装置またはデバイス増設ユニットに添付のいずれかのものを使用します。



本装置を取り付ける基本処理装置またはデバイス増設ユニットのモデルによって、使用するラッチングレールが異なります。本装置に添付されているラッチングレールを使用して基本処理装置に取り付けられない場合は、基本処理装置またはデバイス増設ユニットのマニュアルを参照の上、基本処理装置またはデバイス増設ユニットに添付されているラッチングレールを使用して取り付けてください。

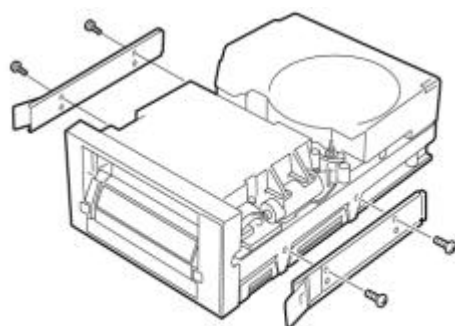


ラッチングレール1  
(本装置添付)

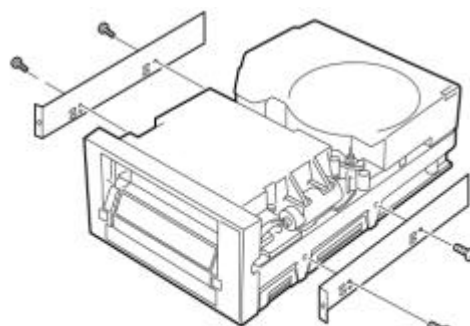


ラッチングレール2  
(基本処理装置またはデバイス増設ユニット添付)

本装置をじょうぶで平らな場所に置いて、ラッチングレールを本DLT装置に添付のネジで左右に取り付けます。



本装置に添付のラッチングレール1を取り付ける場合



基本処理装置またはデバイス増設ユニットに添付のラッチングレール2を取り付ける場合

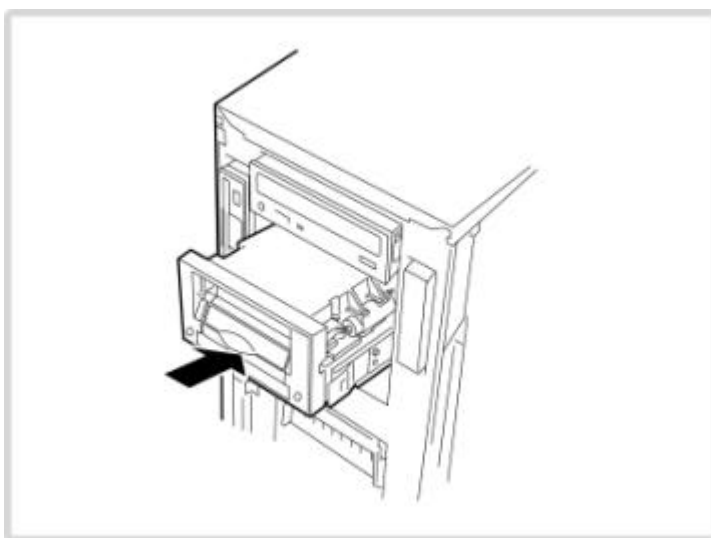
本装置は、基本処理装置の5.25インチデバイスベイ（2スロット占有）、またはデバイス増設ユニットに取り付けることができます。本マニュアルでは、基本処理装置への取り付けについてのみ記述します。



詳しくは、基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください。（本装置を取り付けるためには、5.25インチデバイスベイが2スロット分必要です。）  
デバイス増設ユニットへの取り付けについては、デバイス増設ユニットのマニュアルを参照してください。

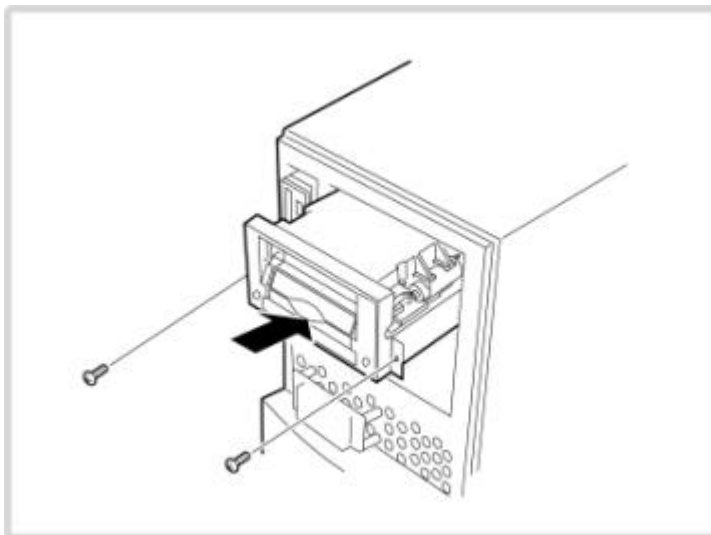
### ラッチングレール1 を使用した場合

- 1 基本処理装置の電源スイッチをOFF にして、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 基本処理装置のカバー類を取り外します（詳しくは基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください）。
- 3 本装置を基本処理装置の5.25 インチデバイスベイに取り付けます。



### ラッチングレール2 を使用した場合

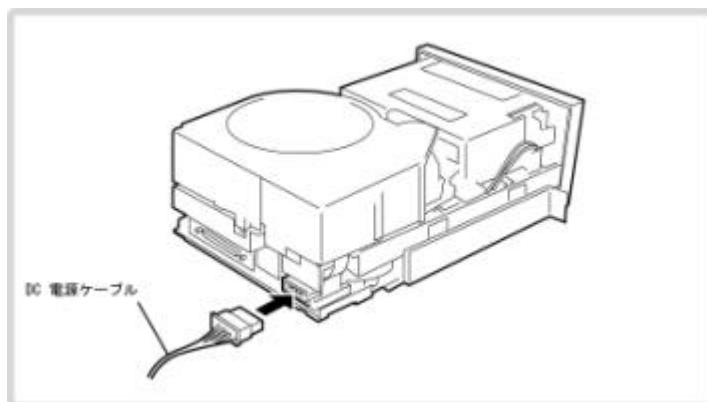
- 1 基本処理装置の電源スイッチをOFF にして、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 基本処理装置のカバー類を取り外します（詳しくは基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください）。
- 3 本装置を基本処理装置の5.25インチデバイスベイの上段に取り付けます。
- 4 基本処理装置のネジを使用してしっかりと固定します。



---

## DC電源ケーブルの接続

基本処理装置の電源ユニットから出ているDC電源ケーブルから未使用のケーブルを本装置のリアにある電源コネクタに差し込みます。



---

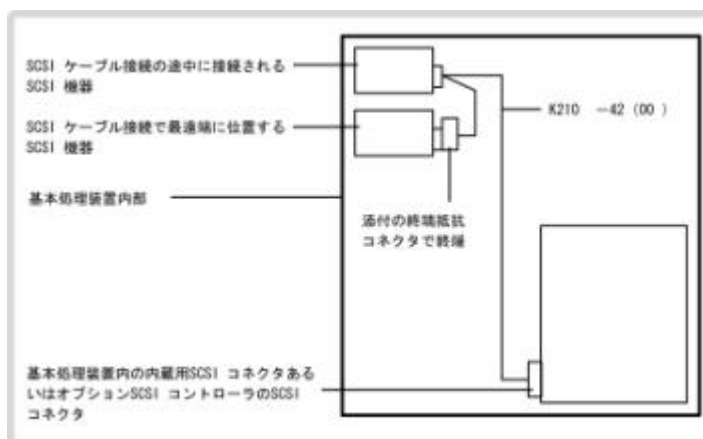
## SCSIケーブルの接続

本装置と基本処理装置内の内蔵用SCSIインタフェースコネクタ (Wide Single-ended) またはオプションのSCSIコントローラ (Wide Single-ended) をSCSI ケーブルで接続します。本装置のSCSIコネクタはリアにあります。



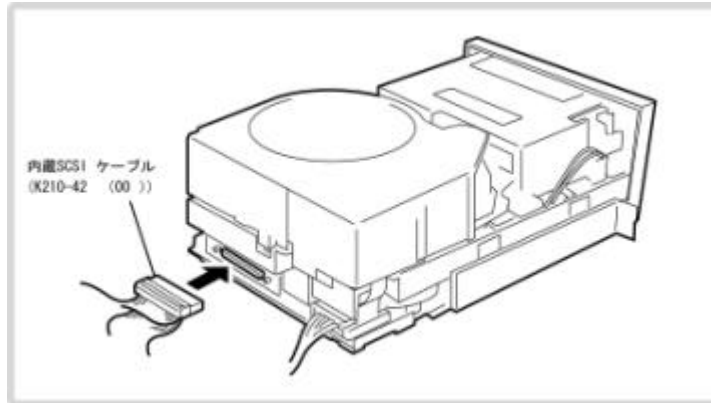
- 本装置の接続に使用する内蔵SCSIケーブルは、K210-42 (00) (別売品 :付録B 参照) を使用してください。
- SCSIケーブルを接続する前に、ケーブルの破損、およびコネクタピンの曲がり、汚れがないことを確認してください。
- 基本処理装置のモデルによっては、接続順序が決められているものもあります。詳しくは、基本処理装置に添付のマニュアルを参照してください。

SCSI ケーブルを接続するときは、SCSI ケーブル接続で最遠端に位置する装置に終端コネクタを取り付けなければなりません。SCSI ケーブル接続で本装置が次の図に示す位置にある場合は、該当するSCSI 機器に終端コネクタを取り付けてください。



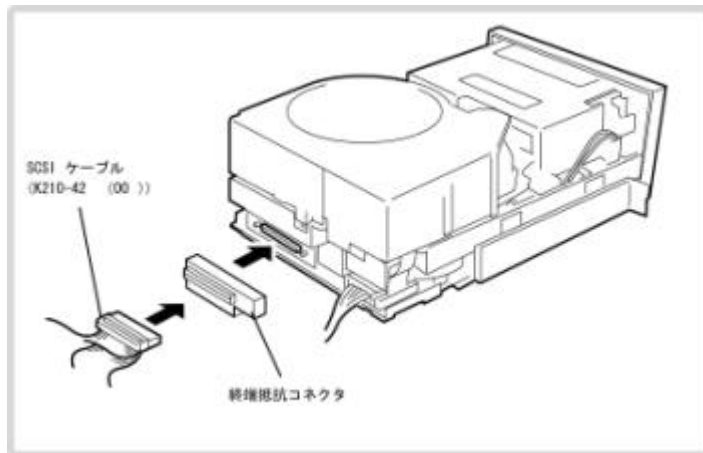
### 本装置を SCSI ケーブル接続の途中に接続する場合

本装置のSCSIコネクタにSCSIケーブル（ K210-42(00) ）を接続した後、最遠端に位置する SCSI 機器にて終端されていることを確認します。



### 本装置で SCSI ケーブル接続が終わる場合

本装置のSCSIコネクタとSCSIケーブル（ K210-42(00) ）の間に添付の終端抵抗コネクタを取り付けてください（下図参照）。



SCSIケーブルの接続が終わったら、「基本処理装置への取り付け」で取り外したカバー類を取り付けて、基本処理装置の電源プラグをコンセントに差し込みます。

# 第3章 使用方法

本装置を日常使用する上で知っておいていただきたい操作方法について説明します。

## 電源のON/OFF

本装置の電源は取り付けられた装置の電源スイッチ（POWERスイッチ）と連動しています。本装置の電源のON/OFFは取り付けられた装置のPOWERスイッチを使用してください。



### システム起動時 / 終了時の注意事項

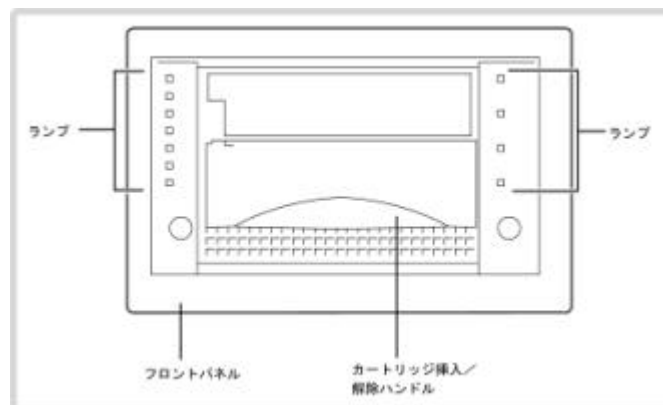
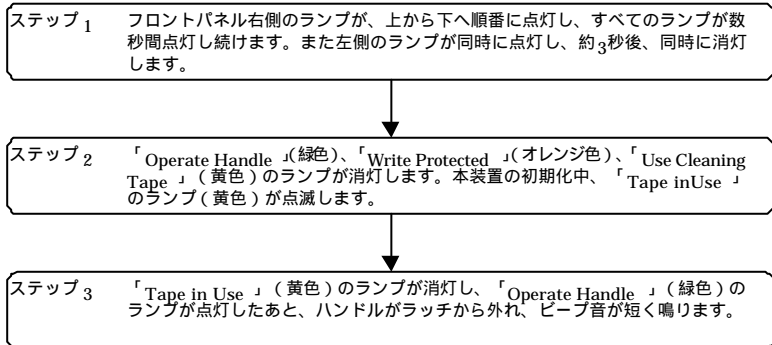
- カートリッジテープは、基本処理装置の電源ON 後、システムが完全に起動してから挿入してください。システムの起動前に挿入すると、カートリッジテープに記録されたデータの読み込み / 書き込みが正常に行われないうちがあります。
- カートリッジテープは、システムを終了する前に取り出してください。カートリッジテープが挿入されたままシステムを終了すると、この次にシステムを起動したときにカートリッジテープに記録されたデータの読み込み / 書き込みが正常に行われないうちがあります。

## 自己診断(POST)

基本処理装置の電源スイッチをONにすると、基本処理装置が行う自己診断とは別に本装置単体での自己診断（POST）を自動的に実行します。



カートリッジ挿入 / 解除ハンドルが開いた状態（上がった状態）で基本処理装置の電源をON にすると、本装置単体でのPOSTを完了できません（Operate Handleランプが点滅した状態になります）。また、POSTを完了していないままカートリッジテープを挿入すると、本装置の書き込み保護機構を破損するおそれがあります。



POST が終了すると、ハンドルを上げてカートリッジテープを挿入できます。

POST は約13 秒で完了し、本装置は通常すべてのコマンドに対して応答するようになります。しかし、カートリッジテープへの読み込み / 書き込みを行える状態になるには、もう少し時間がかかることがあります。



ステップ3は、カートリッジテープが入っていない状態でのPOSTを示しています。この状態以外でPOSTを実行したときの装置の状態を次に示します。

- カートリッジテープが装置に入っていて、カートリッジ挿入 / 解除ハンドルが下がっている。
  1. カートリッジテープをロードします。
  2. 「Tape in Use」ランプが点滅から点灯に変わり、テープの密度を示す3つのランプのうちのいずれかのランプが点灯します。(たとえば、実際のテープ密度が2.6の場合、2.6のラベルのとなりにあるランプが点灯します。)
  3. 本装置が使用できる状態になります。(「Density Override」が点滅しているときは、記録密度が選択できます。19ページを参照してください。)
  
- カートリッジテープが装置に入っているが、カートリッジ挿入 / 解除ハンドルが上がっている。(お勧めできません。カートリッジテープを装置に入れたときは、必ずカートリッジ挿入 / 解除ハンドルを下げてください。)
  1. 「Tape in Use」ランプが消灯し、「Operate Handle」ランプが点滅します。
  2. カートリッジ挿入 / 解除ハンドルを下げると、カートリッジテープをロードします。
  3. 本装置を使用できる状態になります。

### POST 中にエラーが起きたときは

フロントパネルの左側と右側のすべてのランプが点灯している場合は、POST 中にエラーが起きたことを示します。

カートリッジテープが入っている場合は、「Unload」ボタンを押してアンロードした後、カートリッジテープを取り出して、本装置の電源を投入し直してください。

カートリッジテープが入っていない場合は、本装置の電源をOFF にしてから再びON してみます。右または左側のランプが点滅をやめ、装置は再びPOST を実行します。ランプはもう一度点灯し続け、POST が正常終了すると消えます。

再びエラーが起きたときは、第6章を参照して、障害の原因を確認してください。

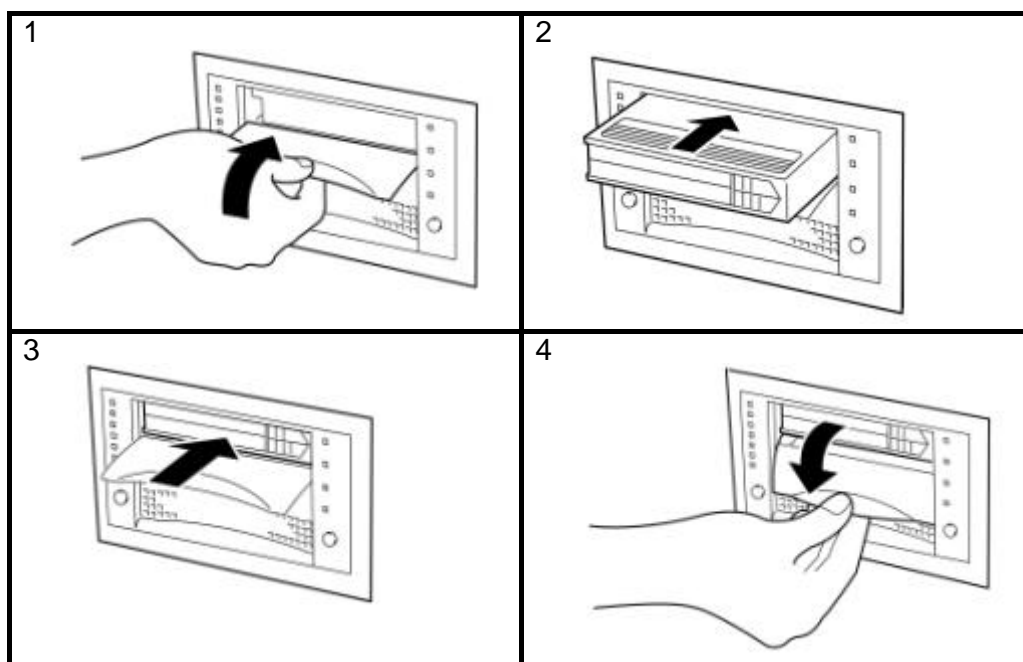
# カートリッジテープの挿入

次の手順に従ってカートリッジテープを挿入します。



- カートリッジテープをケースから取り出すときに、カートリッジテープの取扱説明書やラベルなどがカートリッジテープにくっついていないことを確認してください。そのまま本装置に挿入すると、本装置の故障の原因となります。
- 「Operate Handle」ランプ（緑色）が点滅しているときは、カートリッジテープを挿入しないでください。この場合、いったんカートリッジ挿入/解除ハンドルを押し下げ、 「Operate Handle」ランプが点灯したことを確認してからカートリッジテープを挿入してください。そのまま無理にカートリッジテープを挿入すると、本装置の書き込み保護機構を破損するおそれがあります。

- 1 電源をONにしてシステムを起動した後、「Operate Handle」ランプ（緑色）が点灯しているのを確認してから、カートリッジ挿入/解除ハンドルを引き上げます。
- 2 カートリッジテープを本装置に挿入します。
- 3 カートリッジテープをゆっくり、ていねいに本装置内に突き当たるまで押し込みます。
- 4 カートリッジ挿入/解除ハンドルを押し下げます。



「Operate Handle」ランプが消灯して「Tape in Use」ランプが点滅し、カートリッジテープがリテンション中（準備中）であることを示します。カートリッジテープのBOTマークが検出されると「Tape in Use」ランプが点灯したままになります。これで、カートリッジテープを使用する準備ができました。



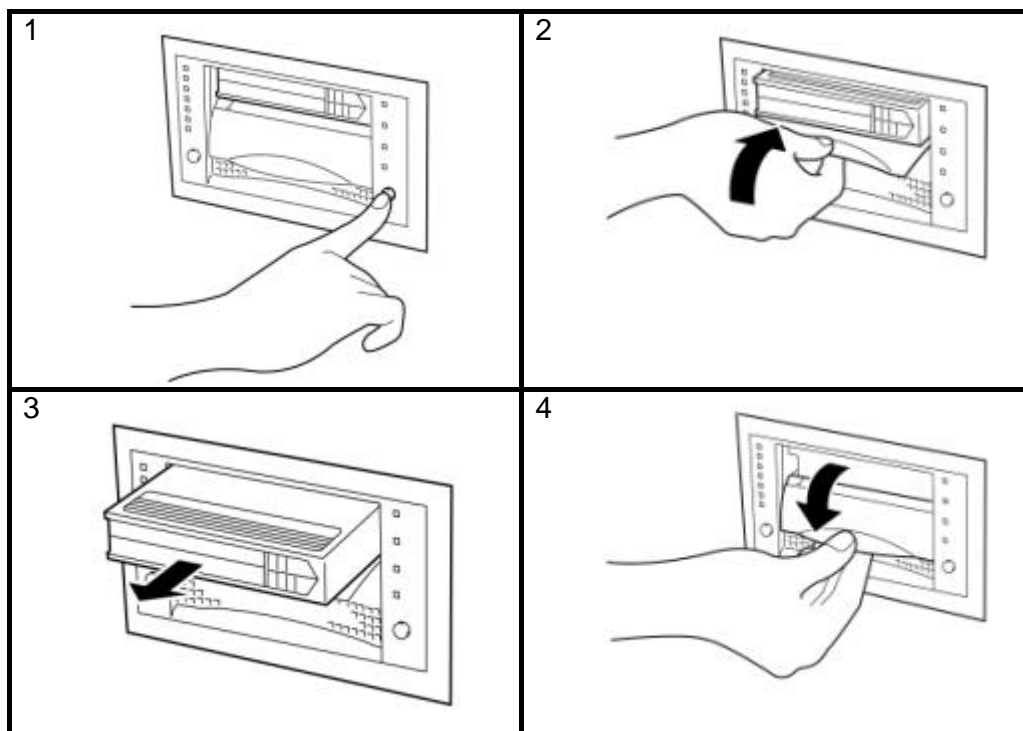
# カートリッジテープの取り出し

次の手順に従ってカートリッジテープを取り出します。



カートリッジテープは、本装置の電源をOFFにする前に本装置から取り出してください。カートリッジテープを取り出さないで電源をOFFにすると、カートリッジテープと本装置が損傷するおそれがあります。

- 1 「Unload」ボタンを押します（あるいは、基本処理装置からの適切なシステムソフトウェアのコマンドを送ります）。「Tape in Use」ランプ（黄色）が点滅し、テープが巻き戻されます。
- 2 「Operate Handle」ランプが点灯したら（ピープ音も鳴ります）、カートリッジ挿入/解除ハンドルを引き上げます、カートリッジテープが本装置から排出されます。
- 3 カートリッジテープを取り出します。  
カートリッジ挿入/解除ハンドルを引き上げて1～2秒ほどの間隔を開けてからカートリッジテープを取り出してください。ハンドルを引き上げてすぐにカートリッジテープを取り出そうとするとテープが装置内部に引っかかってしまうことがあります。
- 4 カートリッジ挿入/解除ハンドルを押し下げます。



本装置からカートリッジテープを取り出した後は、カートリッジテープを長持ちさせるためにプラスチックケースに戻してください。

---

## ランプ表示について

「Tape in Use」ランプが点灯したままのときは、常にカートリッジテープを使用できる状態であることを示します。カートリッジテープが読み込み／書き込み、あるいは巻き戻し中には、「Tape in Use」ランプが点滅します。

次の表は、カートリッジテープの使用中に発生するランプの表示とその意味を示します。

カートリッジテープの使用中的状態表示

表示	意味
黄色のランプが点灯する。	カートリッジテープが本装置に挿入されていますが、テープが動作していません。これは、アプリケーションが制御装置と通信していないか、アプリケーションは通信を行っているがテープ動作を行うコマンドを出していないことを意味します。
黄色のランプが不規則に点滅する。	読み込みまたは書き込み動作中です。
黄色のランプが規則正しく点滅する。	カートリッジテープがロード、アンロード、あるいは巻き戻し中です。
緑色のランプが点灯し、ピープ音が鳴る。	カートリッジテープがテープドライブ内でアンロードされ、取り出し可能になっているか、あるいは本装置にカートリッジテープが入っていない場合はカートリッジテープが挿入可能です。
右側の4つのランプがすべて点滅している。	動作中にエラーが発生しました。第6章を参照してください。

# 記録密度の選択

ここでは、本装置の記録密度選択機能について説明します。



記録済みのテープを再使用して、テープの始まり (BOT )から書き込む場合、記録済みのデータはすべて消去されます。これには、記録密度を変更した場合も含まれます。記録密度の変更は、BOT からの書き込み時にしか行われません。

---

## 記録密度の選択方法

密度は、以下のうちのいずれかを用いて選択できます。

- すべての読み込みとすべての書き込み追加の操作では、記録済みの密度で行われます。
- BOT (テープの始め )からの書き込みでは、テープ密度は、以下の方法により変更できます。
  - フロントパネルの「Density Select 」ボタンを使用した変更
  - 本装置のデフォルト値による変更 (「Density Select 」ボタンまたは基本処理装置による選択を使用しなかった場合。または、「Density Select 」ボタンによる変更を使用せず、かつ基本処理装置からの変更がカートリッジでサポートされていない記録密度であった場合。)

---

## 密度の選択手順

次の手順で記録密度の選択を行います。

- 1 カートリッジテープを本装置に挿入します。カートリッジテープを挿入して記録密度を測定する間、黄色の「Tape in Use」ランプが点滅します。
- 2 密度測定の完了後、「Tape in Use」ランプが点滅から点灯に変わります。
- 3 ランプは、2.6または6.0などの、すでに記録済みのカートリッジテープの密度を示します。



**未使用のカートリッジテープが挿入された場合。**

- 型番EF- 2413Gは、35.0 (圧縮付き )が自動的に選択されます。
- 型番EF- 2413は、10.0 (圧縮付き )が選択されます。

データの書き込みが行われるまで選択された記録密度のランプは点灯しません。

- 4 本装置のフロントパネルは、カートリッジテープの挿入した後だけでなく、さまざまな場合に使用します。密度の選択は、BOTからの書き込みコマンドが出されるまでは、起動していません。本装置は、次の操作のいずれかを行うまでは、密度選択状態を記憶しています。
  - 記録密度の変更
  - カートリッジテープの取り出し

## 密度選択の例

密度が2.6GBの記録済みのカートリッジテープを挿入し、「Density Select」ボタンを使用して10.0GBの密度を選択した場合の操作の流れを例に示します。

- 1 2.6ランプが点灯し続けます 密度はまだ変更されておらず、点灯し続けているランプは記録済みのカートリッジテープ密度を示します。
- 2 「Density Select」ボタンを押して、10.0GBの記録密度を選択します。このとき「Density Override」ランプが点滅します。
- 3 10.0ランプが点滅します 密度の変更が保留になっています。
- 4 「Density Override」ランプが点灯します。
- 5 BOT からの書き込みが発生すると、以下の動作が発生します。
  - 2.6ランプが消えます。
  - 10.0ランプが点灯し続けます。
  - 「Density Override」が点灯し続けます。

密度を選択した結果を示します。

密度選択の結果

操 作	結 果
「Density Select」ボタンを使用しなかった。	カートリッジテープの読み込みおよび書き込み時に、実際の密度を示すランプが点灯し、「Density Override」ランプが消灯します。
「Density Select」ボタンを使用し、実際の記録密度が選択した密度と同じ場合。	実際の密度を示すランプと「Density Override」ランプが点灯します。たとえば、実際のテープ密度が10.0GBで、選択したテープ密度も10.0GBの場合、10.0ランプが点灯します。
「Density Select」ボタンを使用し、実際の記録密度が選択した密度と異なる場合。	1.実際の密度を示すランプが点灯し続けます。 2.選択した密度を示すランプが点滅します。 3.「Density Override」ランプが点灯し続けます。  たとえば、実際のテープ密度が10.0GBで選択した密度が6.0GBの場合、10.0ランプが点灯し続け、6.0ランプが点滅し、「Density Override」ランプが点灯し続けます。



Density Selectボタンを使用した場合、基本処理装置からの記録密度の変更よりもDensity Selectボタンで選択した記録密度が優先されます。

## 第4章 カートリッジテープ

本装置で使用するカートリッジテープの取り扱い方法や注意事項について説明します。

### カートリッジテープについて

本装置で使用できるカートリッジテープは、約10センチ（4インチ）のプラスチック製カートリッジテープ（型番:EF- 2413G）で、カートリッジ内に八分幅の磁気金属粒子テープが約549メートル（1,800フィート）分収められています。



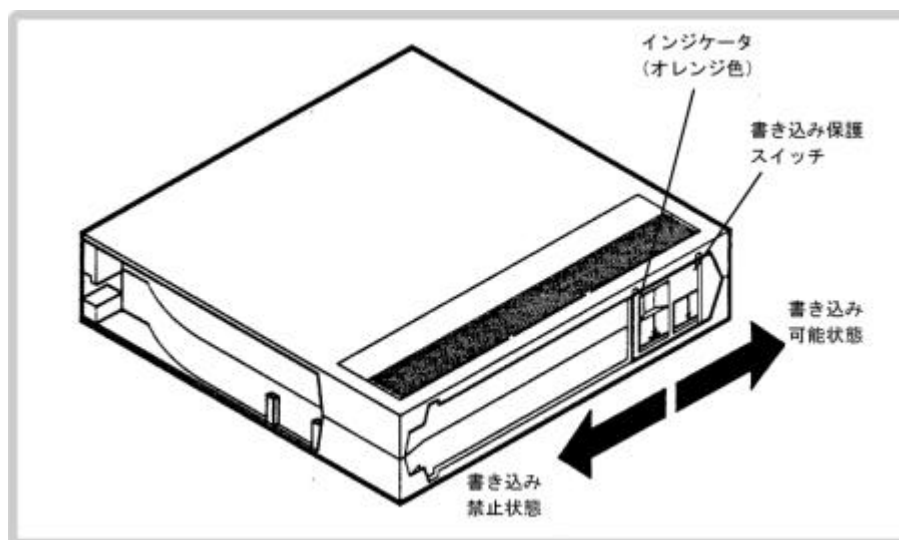
- NECが提供するカートリッジテープを使用することをお勧めします。
- 型番「EF- 2413」のカートリッジテープも使用することができます。

### カートリッジテープの書き込み保護スイッチ

カートリッジテープには、データを不用意に消さないよう、書き込み保護スイッチがついています。カートリッジテープを本装置に挿入する前に、カートリッジテープ前面の書き込み保護スイッチの状態を確認してください。

- ℓ 左へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが禁止されます。
- ℓ 右へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが可能になります。

スイッチを左へスライドさせると、小さなオレンジ色の四角形が見えます。これは、カートリッジテープにデータを書き込みできないことを意味します。

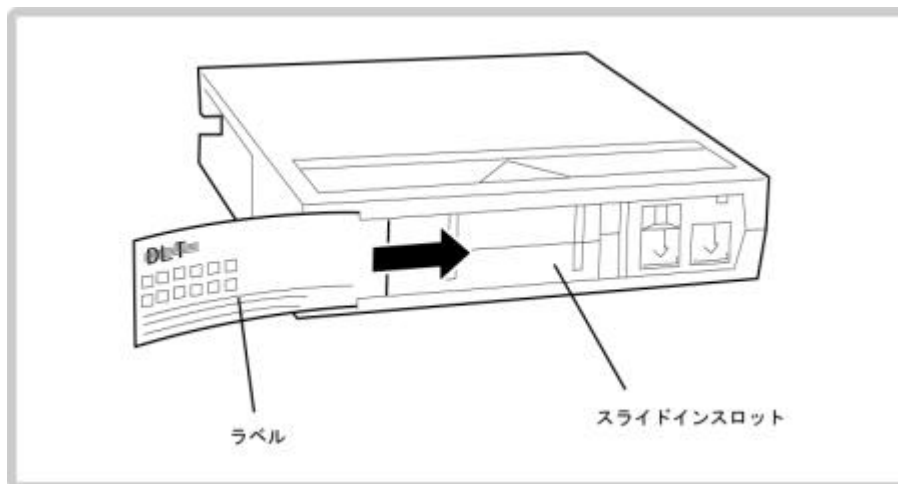


カートリッジテープを装置に挿入した後、カートリッジテープの書き込み保護スイッチを左へ動かすと、本装置はただちに書き込み保護のLEDを点灯させます。しかし、本装置がカートリッジテープへの書き込み動作を行っている場合、書き込み保護はその書き込み動作が完了するまで有効になりません。

---

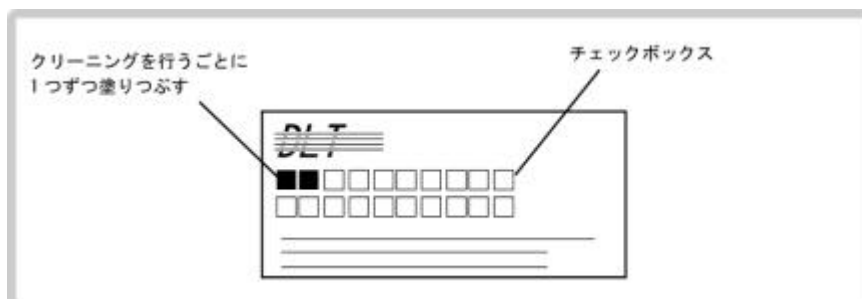
## ラベルの取り付け位置

ラベルは、カートリッジテープの前面にあるスライドインスロットに取り付けることができます。カートリッジテープとそのテープに記録されたデータ内容を一目で確認することができますので、必ずデータの内容をカートリッジテープに添付のラベルに記載してからカートリッジテープに取り付けてください。



また、添付のクリーニングテープにも専用のラベルが添付されています。ラベルには、10個の「(チェックボックス)」が2列に並んでいます。本装置の読み込み/書き込みヘッドをクリーニングテープでクリーニングするたびに、ボールペンなどでチェックボックスを1つずつ塗りつぶしてください。

すべてのチェックボックスが塗りつぶされた場合、新しいクリーニングテープと交換してください。



# 取り扱い上の注意

カートリッジテープを取り扱う際の注意事項について説明します。

## 使用上の注意事項

### 使用する前

- ・使用するカートリッジテープが破損していたり、変形していたり、曲がっているときは使用しないでください。
- ・使用するカートリッジテープをゆっくり振り、カラカラ音がしないことを確認して下さい。カラカラ音がする場合には、カートリッジテープを使用しないで下さい。
- ・カートリッジテープ内部のリーダグループが破損していないことを確認してください。(確認方法は付録 C 参照)
- ・装置の使用温湿度条件以外で保管されていたカートリッジテープを使用する場合は、使用温度条件以外になっていた時間以上の間(最大 8 時間) 使用環境に持ち込んでから使用してください。その時、保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は一度に移動せず、温度変化が 1 時間に 10 程度になるように注意し、使用場所の温度にカートリッジテープをなじませてください。

### 本装置への装着時

カートリッジテープに必要以上の力を加えないでください。無理な力で挿入しようとすると本装置やカートリッジテープが破損するおそれがあります。  
カートリッジテープを取り出した保護ケースは、しっかりと閉じ粉塵の少ない場所で保管してください。

### 使用后

使用済みのカートリッジテープは必ず保護ケースに入れて粉塵の少ない場所で保管してください。置き方は、水平・垂直を問いません。

### 廃棄方法

廃棄の際は、各自治体の廃棄方法に従ってください。

## 一般的な注意事項

テープ自体(磁性面)に手を触れないでください。

磁気を発生するものを近づけないでください。

強い衝撃を与えないでください。

直射日光を避け、暖房器具から遠ざけて保管してください。

装置に挿入するときは、ていねいに取り扱いってください。

飲食や喫煙をしながらの取扱いは避けてください。また、クリーニング時はシンナーやアルコールなどが付着しないように注意してください。

使用後は必ずケースに入れて保管してください。

カートリッジテープは、ゴミやほこりを嫌います。

---

## 使用禁止基準

次のいずれかの項目に該当する場合は、そのカートリッジテープの使用を禁止し、新しいカートリッジテープに取り替える必要があります。

落下させるなどの強い衝撃を与え、カートリッジテープが損傷を受けた場合。  
清涼飲料、コーヒー、紅茶などの液体、溶剤や金属粉、たばこなどで記録面が汚れている場合。  
カートリッジテープ内部のリーダループに損傷がある場合。  
輪がきれていたり、折れ曲がっている。  
(確認方法は付録C参照)



上記に示すカートリッジテープを使用するとヘッドや装置を損傷したり、汚したりすることになり、装置の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れや損傷に気が付かず、そのまま新しいカートリッジテープを挿入すると、新しいカートリッジテープを汚したり、傷つけたりして被害を拡げるおそれがあります。

---

## 寿命

カートリッジテープの寿命は使用環境によっても異なりますが、以下を参考にしてください(温度・湿度・粉塵などの使用環境によって、目安よりも短くなる場合があります)

新しいカートリッジテープを使用するときに、管理番号を割り当て、その番号をカートリッジテープのラベルに記入しておくといいでしょう。

カートリッジテープ管理番号台帳を作り、使用日を記録し、カートリッジテープの使用年数と使用回数を見積もります。

定期的にカートリッジテープの管理台帳と標識ラベルを調べ、手元にあるカートリッジテープが長く使用され、書き込み、読み取りエラーが発生したりして信頼性が低い場合は、カートリッジテープを廃棄処分にします。



---

## 正副2巻にバックアップ

重要なデータまたはプログラムなどをセーブする場合には、正副2巻にバックアップすることをお勧めします。

こうしておけば、一方のテープがゴミまたは塵埃などによってリードエラーを起こしても、もう一方のテープから復旧でき大切なデータやプログラムの消失を防げます。

---

## データの3世代管理について

ディスク上のデータをバックアップする場合、バックアップされたデータの3世代管理をお勧めします。

これはテープを3巻（A、B、C）使用して、1日目はテープAにディスク上のデータをバックアップしたならば、2日目にはテープBにバックアップし、3日目にはテープCにバックアップし、A B Cと順番にテープ上にディスク上のデータをバックアップしていくものです。

こうしておけば、一巻のテープCがリードエラーを起こしたとしてもテープBのデータを使用すればデータは復旧できます。また、テープBがリードエラーを起こしたとしてもテープAのデータを使用することで大切なデータは復旧できます。

---

## カートリッジテープの保管について



決められた保管条件を守り、保管場所を常に清潔に保ってください。

長時間に渡って保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行うことをお勧めします。

万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管することをお勧めします。正副2巻のカートリッジテープがある場合には、正、副それぞれ異なる場所に保管しておくことさらに効果的です。

## 第5章 日常の保守と装置の輸送

本装置を安全に、かつ正常に使用するため、定期的に本装置のクリーニングを行ってください。また、本装置を輸送するときは必ずここで示す手順に従ってください。

 <b>警告</b>	
	本装置が万が一破損した場合、もしくは異音や異臭がした場合には、回路部分のショートや感電を防止するためにも、すみやかに基本処理装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。

### クリーニング

#### 装置のクリーニング

カートリッジテープの挿入口などにほこりが溜まらないよう、定期的に装置のまわりをクリーニングしてください。

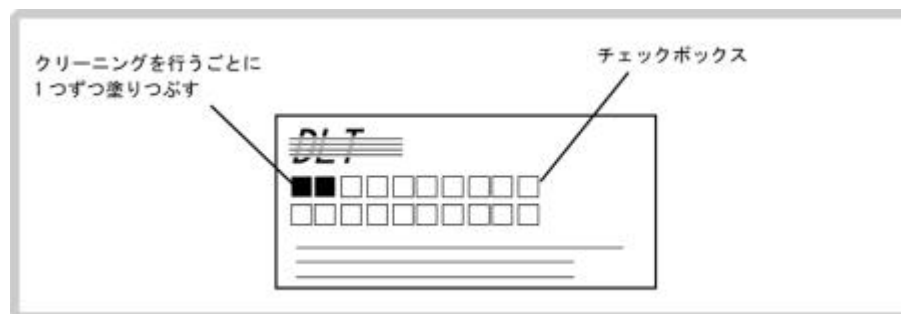
#### ヘッドのクリーニング

本装置のフロントパネルにある「Use Cleaning Tape」ランプが点灯したときは、添付のクリーニングテープを使って本装置の読み込み / 書き込みヘッドのクリーニングを行ってください。



本装置のドライブヘッドをクリーニングするときは、クリーニングテープ(EF-3237E)を使用してください。他のクリーニングテープを使用しないでください。

ヘッドのクリーニング方法は、第4章に示すカートリッジテープの挿入と同様の手順でクリーニングテープを挿入するだけで、あとは自動的に本装置がヘッドのクリーニングを行います。クリーニングが終了すると、「Operate Handle」ランプ(緑色)が点灯し、クリーニングテープの取り出しを要求するピープ音が鳴りますので第4章に示すカートリッジテープの取り出しと同様の手順でクリーニングテープを取り出してください。また、その後でボールペンなどでクリーニングテープのラベルにあるチェックボックスを1つ塗りつぶしてください。



クリーニングテープは、約20回使用できます。ラベルのチェックボックスがすべて塗りつぶされた場合、新しいクリーニングテープ(EF-3237E)と交換してください。

## 装置の移動・輸送について

本装置を輸送する場合は、購入時の梱包箱と梱包材で装置を梱包してください。梱包材がない場合は、輸送の際に装置に衝撃を与えないよう緩衝剤などを使って装置を梱包してください。  
本装置をサーバ/ワークステーションに取り付けたまま輸送する場合も本装置やサーバ/ワークステーションに衝撃を与えないよう緩衝剤などを使って装置を梱包してください。



カートリッジテープは必ず本装置から取り出しておいてください。

## 第6章 故障かな？と思ったときは

本装置が思うように動かないときはこの章で示す障害処理チャートを参照して障害の原因を確認してください。

基本処理装置が本装置を認識しない。

原因	処理方法
基本処理装置が、SCSI IDを認識するように構成されていない。	本装置のSCSI IDを認識するよう基本処理装置を構成します。
SCSI IDが固有ではない。	SCSI IDを変更して、基本処理装置を再構成します。新規のSCSI IDは、次の電源投入時から有効になりますので本装置の電源を入れ直してください。
SCSIアダプタのセットアップが正しくない。	SCSIアダプタの取り付けをチェックします。
SCSI ケーブルがゆるんでいる。	SCSIケーブルの両端のコネクタが完全に固定されていることを確認します。
SCSI 終端抵抗コネクタがないか、ゆるんでいる。	終端抵抗コネクタを取り付けます。あるいは、終端抵抗コネクタが完全に固定されていることを確認します。
SCSIバスが正しく終端していません。	本装置がSCSIバス上で最遠端に位置する装置である場合、終端抵抗コネクタが本装置に取り付けられていることを確認します。
終端抵抗コネクタがSCSIバスの終端にないか、3個以上の終端抵抗コネクタが存在する。	本装置がSCSIバス上で最遠端に位置する装置でない場合、SCSIケーブルの接続をチェックして、終端抵抗コネクタがSCSIバスの終端に取り付けられていることを確認します。 終端抵抗コネクタは、SCSIバスの両終端に1つずつ取り付けます。
SCSIバスが長すぎる。	SCSIバスの長さは、ANSIのSCSI 規格で制限されています。この規格では、本装置は最大3メートルとなっています。基本処理装置側のシステム構成および基本処理装置内のケーブル接続をチェックします。

本装置の電源をONできない。

原因	処理方法
本装置に電源がきていません。	本装置の電源コードの接続をチェックします。

本装置フロントパネルの左右のランプがすべて点滅している。

原因	処理方法
本装置に故障が発生しました。	カートリッジテープを取り出して、「Unload」ボタンを押して本装置を再初期化するか、あるいは本装置の電源をOFFにしてから再度ONにしてみます。右側または左側のランプが点滅をやめ、本装置が再初期化を試みます。POSTが正常に終了した場合はランプが一度点灯し消えます。

原因を特定できない回復不能または回復可能なエラーを検出した。

原因	処理方法
SCSIバスの終端またはSCSI信号ケーブルの接続が間違っているか、AC電源の接地が間違っている。	SCSIバスが終端していることを確認します。 本装置へのACコンセントは、システムに電源を供給しているものと同じACの電線につながっているものを使用します。

使用するカートリッジテープにより、「Use Cleaning Tape」が点滅する。

原因	処理方法
カートリッジテープが損傷している。	カートリッジテープのデータを新しいカートリッジテープにバックアップして、損傷の可能性がある古いカートリッジテープを廃棄します。損傷したカートリッジテープを使用すると、クリーニングテープを不必要に使うことになる場合があります。

ヘッドをクリーニングした後も、「Use Cleaning Tape」が点灯する。

原因	処理方法
カートリッジテープに問題がある可能性があります。	新しいカートリッジテープで試してみます。

クリーニングテープをロードした後も、「Use Cleaning Tape」がまだ点灯する。

原因	処理方法
クリーニングが行われておらず、クリーニングテープが効力を失っている。	クリーニングテープを交換します。

# 付録A 仕様

## N8151-17 内蔵 DLT 装置

装置仕様

最大データ記憶容量	35GB (圧縮時70GB*)	EF-2413G使用
	10GB (圧縮時20GB*)	EF-2413使用
サステインド転送速度	非圧縮時 : 5MB 圧縮時 : 10MB*	
ピーク時転送速度	同期時 : 20MB/sec	
平均ファイルアクセス時間	68sec	
インタフェース	Wide Single-ended(Fast)	
外形寸法	幅 : 148.3mm 奥行 : 243.8mm 高さ : 86.3mm	
重量	2.9kg	
電源電圧(DC)	+5V : 最大3.8A +12V : 最大2.6A	
消費電力	50.2VA	
発熱量	44kcal / h	

環境条件

動作時]	周囲温度	10 ~ 40 (温度変化率:11 / 時間)
	相対湿度	20% ~ 80%RH (湿度変化率:10% / 時間)
	最大湿球温度	25 (結露しないこと)
保管時]	周囲温度	- 40 ~ 66 (温度変化率:20 / 時間)
	相対湿度	10% ~ 95%RH (湿度変化率:10% / 時間)
	最大湿球温度	46 (結露しないこと)

# 付録B 別売品および消耗品

## 別売品

本装置には次のような別売品があります。お買い求めの際は販売店に品名と型番をお申し付けください。

品名	型番
カートリッジテープ	EF-2413G
カートリッジテープ	EF-2413
内蔵SCSIケーブル	K210-42(00)

それぞれのカートリッジテープの仕様を次に示します。

項目	EF-2413G	EF-2413
最大データ記憶容量	35GB (圧縮時70GB)	10GB (圧縮時20GB)
テープ長	約549m (1,800フィート)	約335m (1,100フィート)
使用条件	周囲温度 :10 ~ 40 相対湿度 20% ~ 80%RH 最大湿球温度 25 (結露しないこと)	
保管条件	周囲温度 :16 ~ 32 相対湿度 20% ~ 80%RH 最大湿球温度 26 (結露しないこと)  カートリッジテープは、添付のプラスチック保護ケースに入れてふたをして保管してください。 カートリッジテープは、水平、垂直どちらでの方向においてもかまいません。	
放置時間	使用条件および保管条件以外の環境下に放置していたカートリッジテープを使用する場合には、使用する前に24時間を超えない範囲で放置していた時間以上に使用する環境下に置いて、なじませてください。(このときの温度勾配は11 /時以下と規定します。)	

## 消耗品

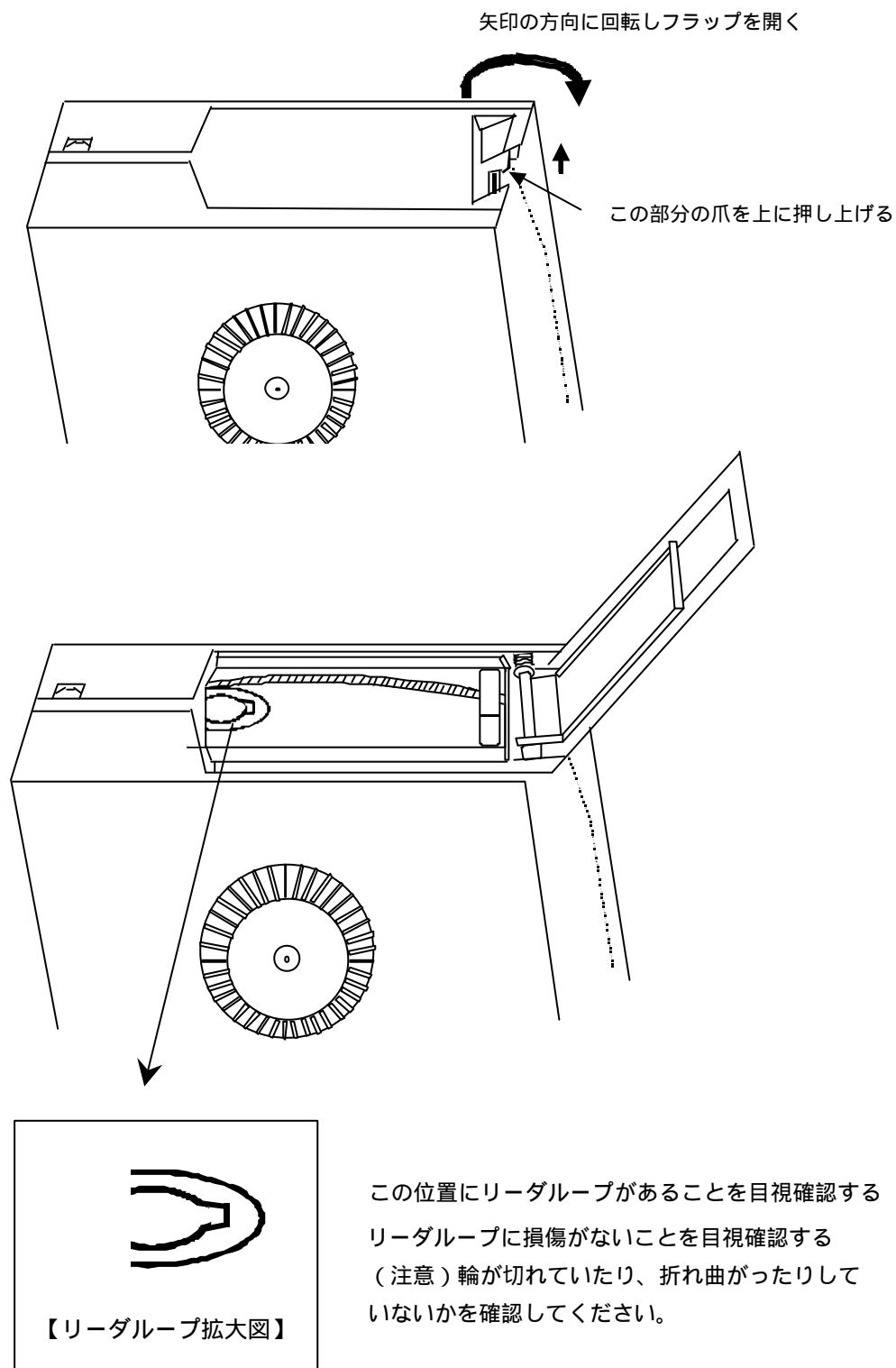
本装置には次のような消耗品が用意されています。お買い求めの際は販売店に品名と型番をお申し付けください。

品名	型番	仕様
クリーニングテープ	EF-3237E	本装置のヘッドクリーニングを20回実施できます。



# 付録C カートリッジテープの確認方法

カートリッジテープのリーダグループに損傷ないことを以下の手順で確認します。



# 付録D 運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモです。

項目	記入欄
取り付けた装置のモデル名	
オペレーティングシステム(OS) (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適応状況)	
バックアップアプリケーション (名称、バージョン、サービス パック/パッチの適応状況)	
SCSI バス構成 (SCSI ID / 同一 バス上のデバイス)	
装置設置環境 (温度、湿度、ほ こりの状況など)	
カートリッジテープの種類 (メーカー名、EF 型番)	
クリーニングテープの種類 (メーカー名、EF 型番)	
クリーニングテープの使用状況 (使用回数や使用開始月の管理 方法など)	
カートリッジテープの使用状況 (使用回数や使用開始月の管理方 法など)	
カートリッジテープの管理状況	

---

N 8 1 5 1 - 1 7  
内蔵 D L T 装置 取扱説明書

2 0 0 1 年 5 月 初 版  
2 0 0 1 年 6 月 第 2 版

日本電気株式会社

東京都港区芝 5 丁目 7 番 1 号  
TEL(03)3454-1111(大代表)

---

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変など行うことはできません。

このマニュアルは再生紙を使用しています。